

## 2. 明石港を取り巻く状況

### 2.1 明石市の概況

#### (1) 明石市の人口・世帯数

明石市の人口は、平成 8 年以降、微増もしくはほぼ横ばいで推移してきている。一方、中心市街地は、平成 9 年以降増加傾向にあり、平成 27 年は平成 12 年と比較すると約 2 割の伸び率となっている。

また、20 代から 30 代前半までの転入超過については、就職や結婚を機に、大都市への交通利便性の高い本市に住居を構える人が多いためと考えられる。(出典：明石市人口ビジョン、平成 27 年 12 月)

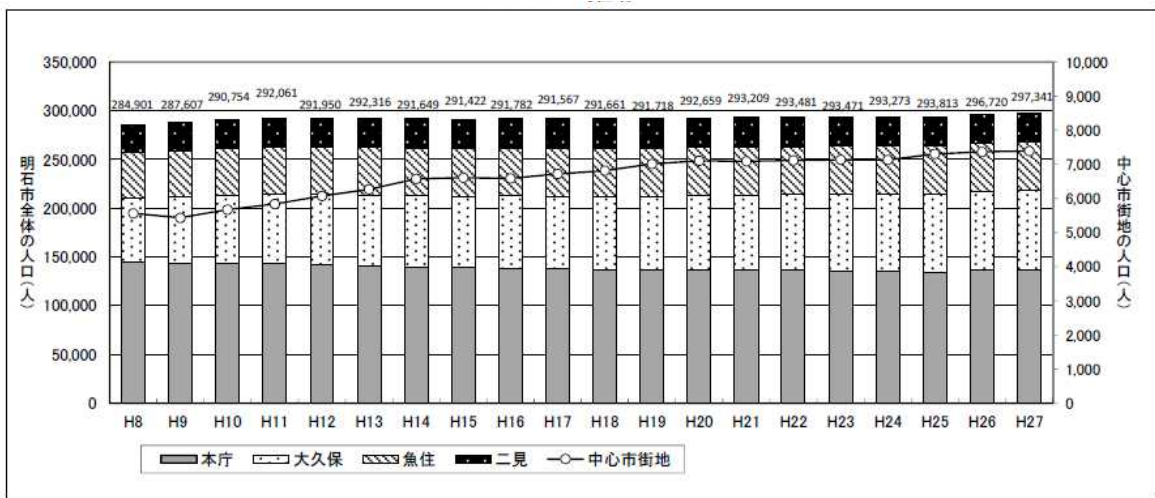


表-1 明石市人口の推移 (資料：明石市中心市街地活性化基本計画)



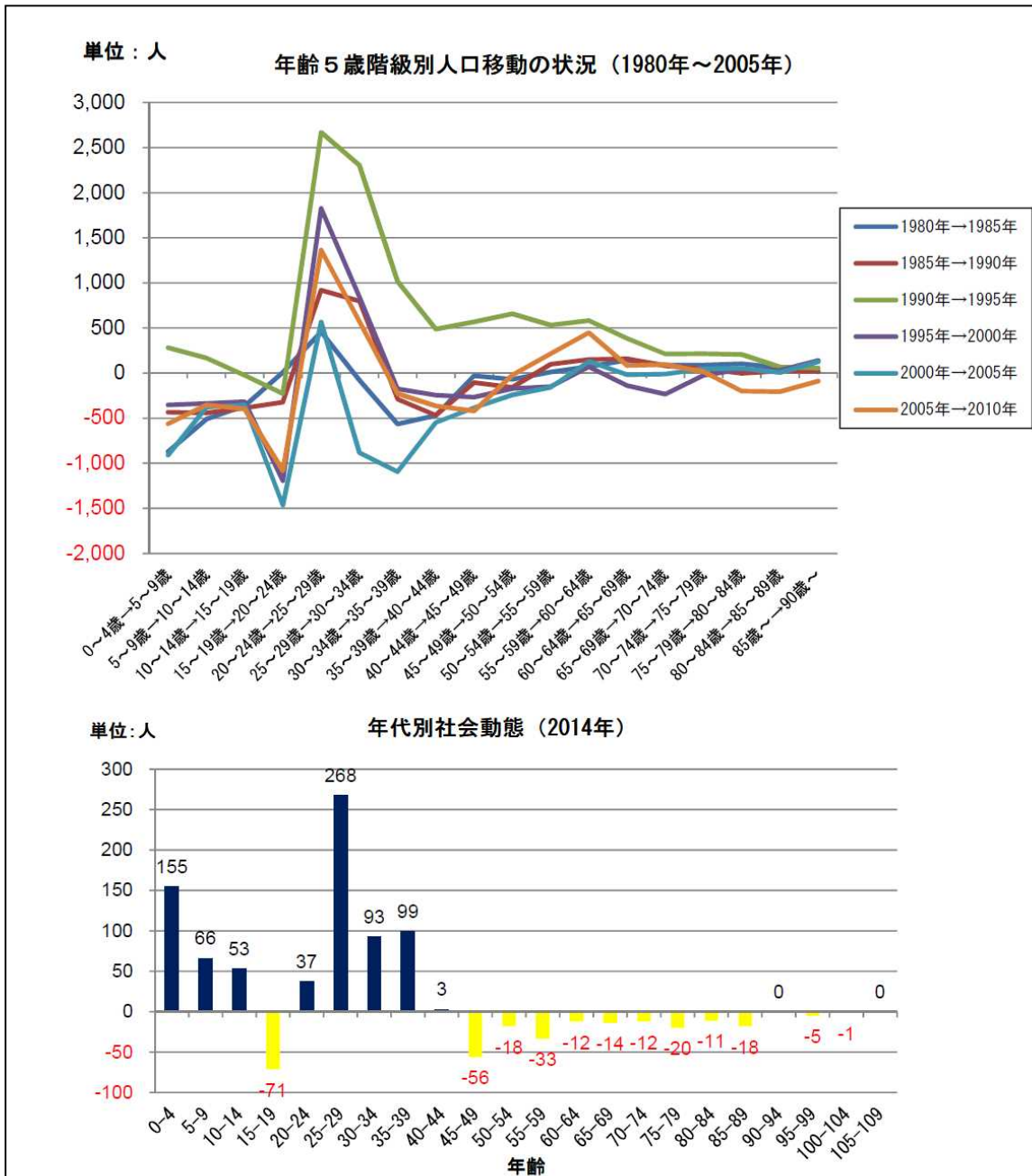


表-2 明石市の社会動態（資料：明石市人口ビジョン）

(2) 昼夜間人口

明石市の昼夜間人口比率は、上昇傾向にあるが、依然として他都市への流出者の方が多い。

		平成12年	平成17年	平成22年
明石市	昼間人口(人) a	260,222	260,144	262,138
	夜間人口(人) b	292,991	289,430	290,959
	昼夜間人口比率(%) a/b	88.8%	89.9%	90.1%
神戸市	昼間人口(人) a	1,536,716	1,547,971	1,583,765
	夜間人口(人) b	1,492,143	1,520,551	1,544,200
	昼夜間人口比率(%) a/b	103.0%	101.8%	102.6%

表-3 昼間人口比率の推移（資料：国勢調査）

## 2.2 周辺の交通機能

明石市東部の幹線道路は以下に示すとおりである。



図-1 明石市東部の幹線道路

中心市街地の幹線道路は以下に示すとおりである。

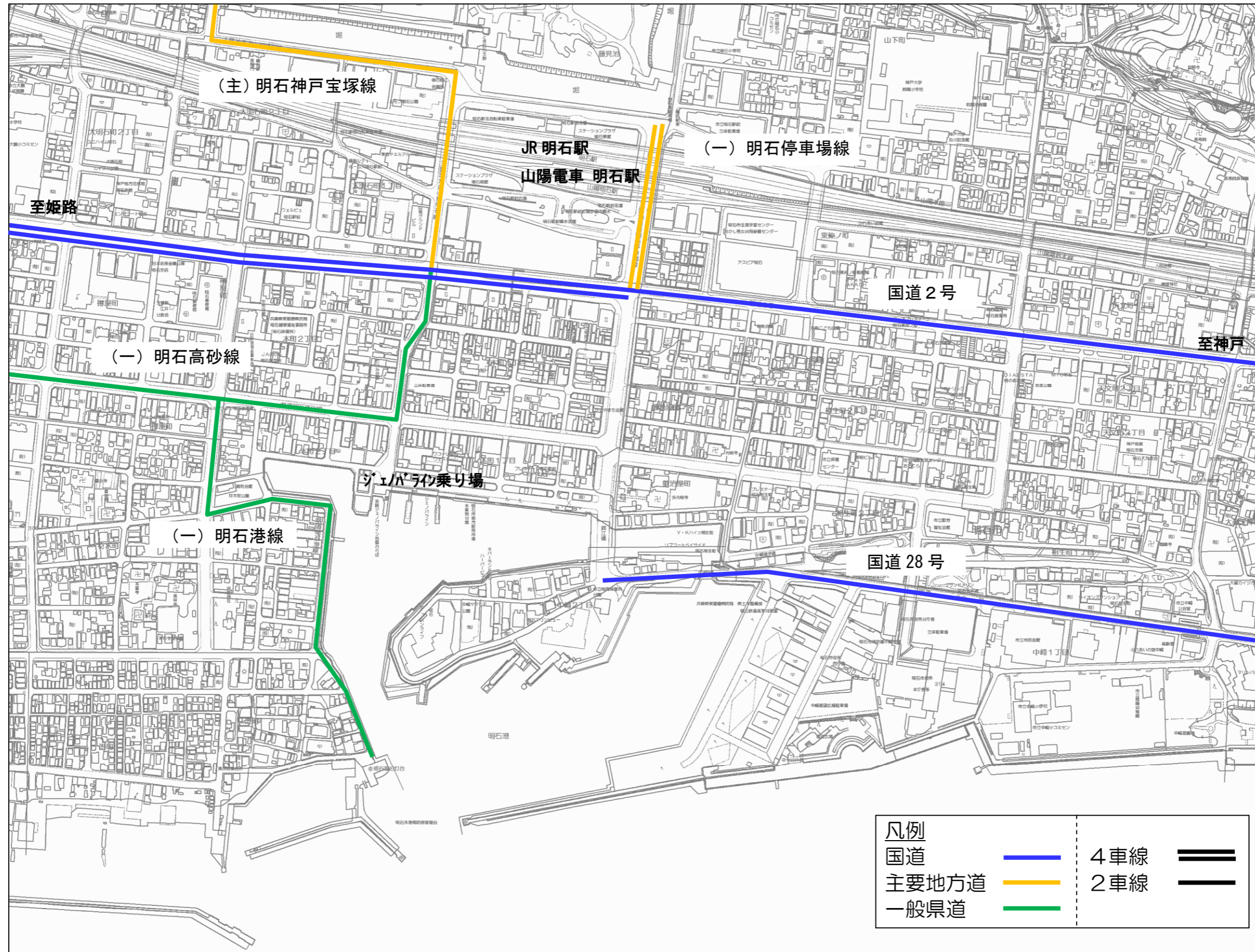


図-2 中心市街地の幹線道路

中心市街地の鉄道、バス路線、歩道整備状況、航路は以下に示すとおりである。

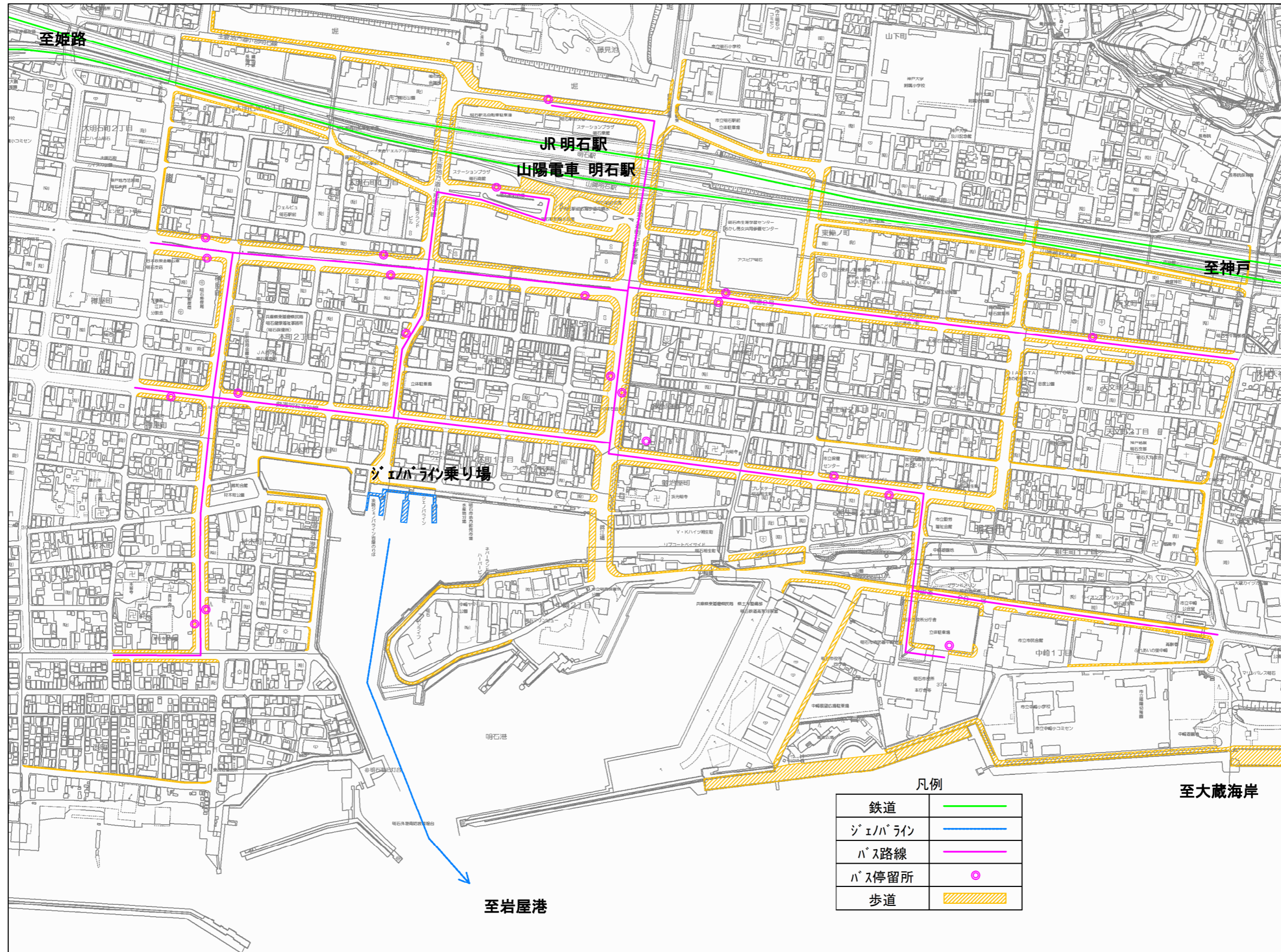


図-3 中心市街地の鉄道、バス路線、歩道整備状況、航路

2.3 周辺の主要施設

①魚の棚



約 100 店舗が軒を連ねる活気ある商店街

②明石城



江戸時代に築城され約 400 年の歴史の面影を伝える明石の名所

③明石公園



明石城址を中心につくられた、自然を満喫できる都市公園

④中崎公会堂



明治 44 年に建設され、集会などに利用される市民の文化活動の殿堂

⑤明石ほんまち三白館

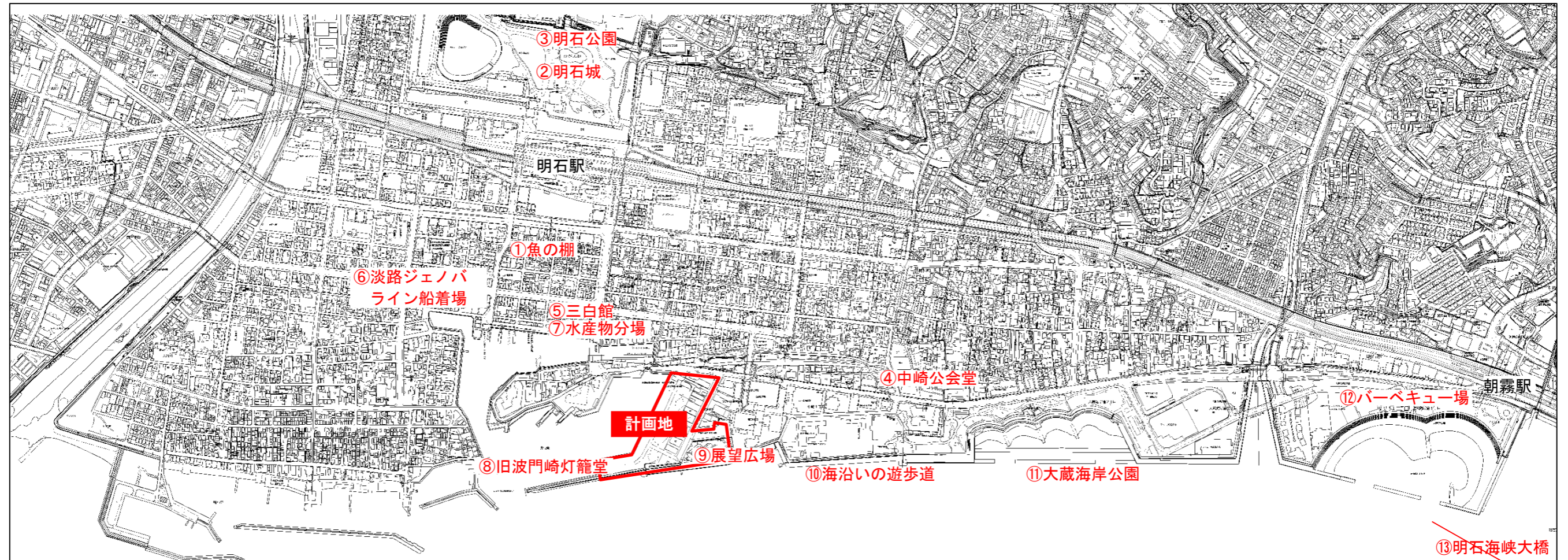


商店街の活性化や地域住民の交流拠点となる大衆演劇が見られる劇場

⑥淡路ジェノバライン船着場



明石と淡路島を結ぶ高速船 淡路ジェノバラインの発着所



⑦水産物分場



漁師が水揚げしたばかりの魚介を持ち込み、セリが行われる場

⑧旧波門崎灯籠堂



石積躯体と鉄筋コンクリート造の高さ 7.3m の灯籠。藩政時代から残る明石港のランドマーク

⑨展望広場



明石海峡大橋や瀬戸内海を一望できる展望広場

⑩海沿いの遊歩道



心地よい潮風を感じながら散策できる海沿いの遊歩道

⑪大蔵海岸公園



青い海と雄大な明石海峡大橋が目の前にあるシーサイドの公園

⑫大蔵海岸公園バーベキュー場



大蔵海岸公園内にあり、家族連れで賑わうバーベキュー場

⑬明石海峡大橋



本州と淡路島を結ぶ、全長約 4km の明石海峡大橋

《明石市における観光の動向》

① 95%が日帰り客

平成 26 年度の観光入込客数は約 490 万人で、うち 94%が日帰り客である。

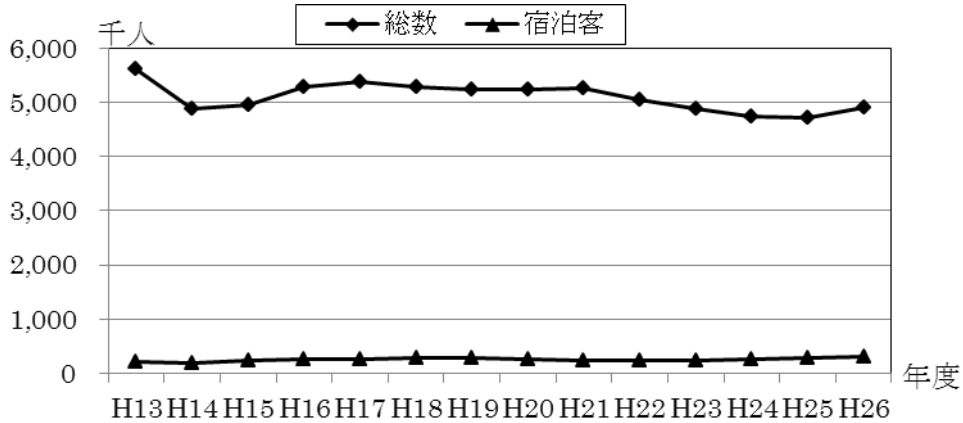


表-4 明石市観光入込客数の推移

② 日帰り客は兵庫県内・近畿から、宿泊客は近畿・関東から

観光客の居住地をみると、県外客が 25%、県内客が 75%の比で概ね推移している。日帰り客は「明石市以外の兵庫県」からの訪問が過半数あり、近畿からの訪問が多くを占めている。宿泊客は「兵庫県以外の近畿地方」「関東地方」から訪れている。

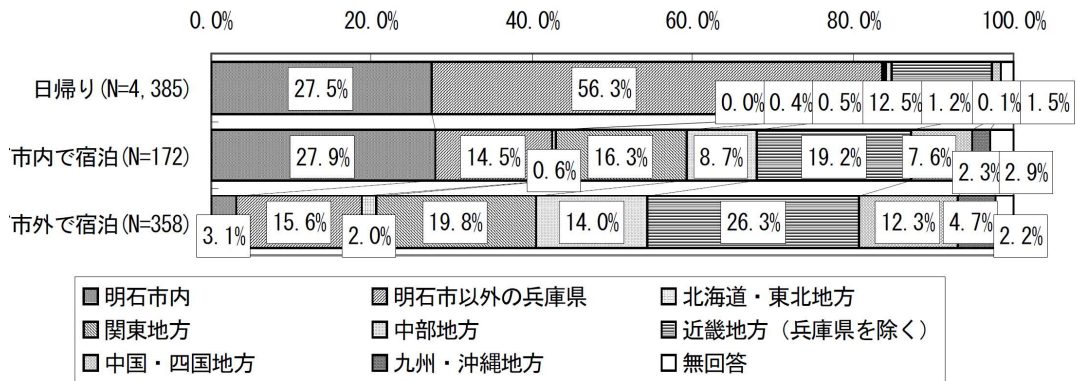


表-5 宿泊の有無別来街者居住地

③ 来訪目的は、特産品の買物・食事

明石市への訪問目的は、「特産品の買い物や食事をする」が最も多く、次いで「イベントや行事の見学、出演・出店」、「天文科学館や文化博物館へ行く」となっており、目的のはっきりした短時間の滞在が多いことが伺える。

一方で「社寺の参拝」や「海の自然を楽しむ」は 10%以下となっている。

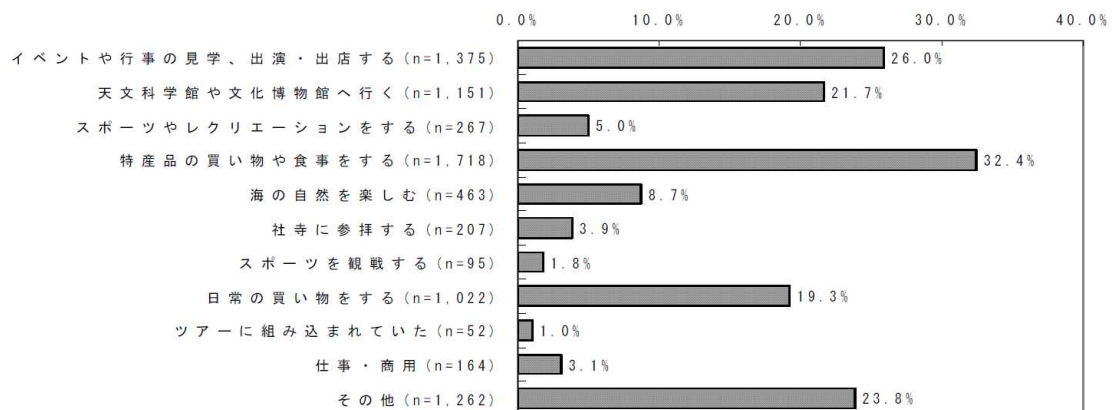


表-6 明石市来訪の目的

④ 市内滞在時間は3時間以下が過半数

市内滞在時間は、3時間以下が52.4%と過半数であり、5時間以下が77.9%を占め、半日以下の短い滞在が主流である。また、訪問されている施設・場所は「魚の棚商店街」「明石公園」「明石駅構内の商業施設」と明石駅周辺に集中しており、時間をかけて、市のさまざまな魅力を周遊する観光行動が少ない状況である。

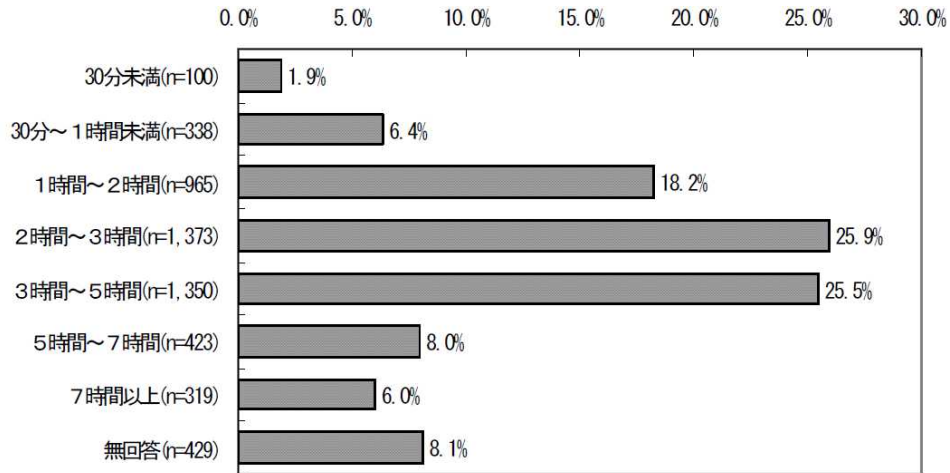


表-7 明石市内での滞在時間

⑤ 日帰り客の観光消費額は4,461円

明石市内での1人あたり観光消費額は、日帰り客が4,461円、市内宿泊客が14,798円、市外宿泊客が6,784円となっている。

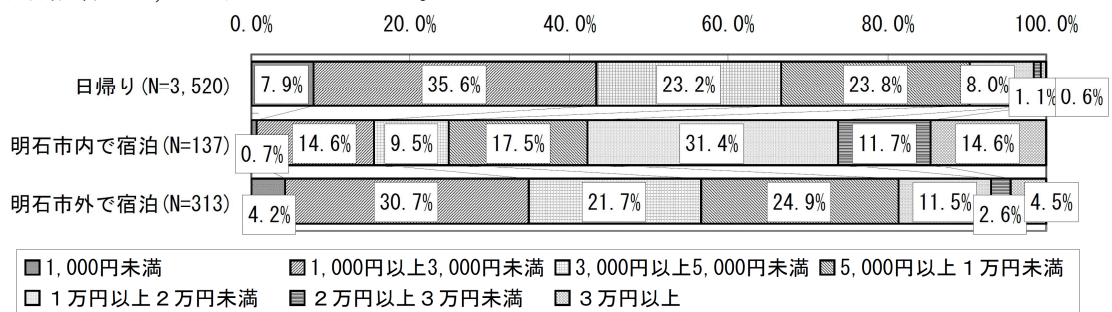


表-8 明石市内での観光消費額の総額

⑥ 40歳未満の来訪者が少ない。また、リピーターが大半を占める。

来街者アンケート回答者の年齢をみると、40歳未満の若年層は少なく、また、リピーターが大半を占めている。入込客についての実数ではないものの、観光の実態の側面を表していると考えられる。

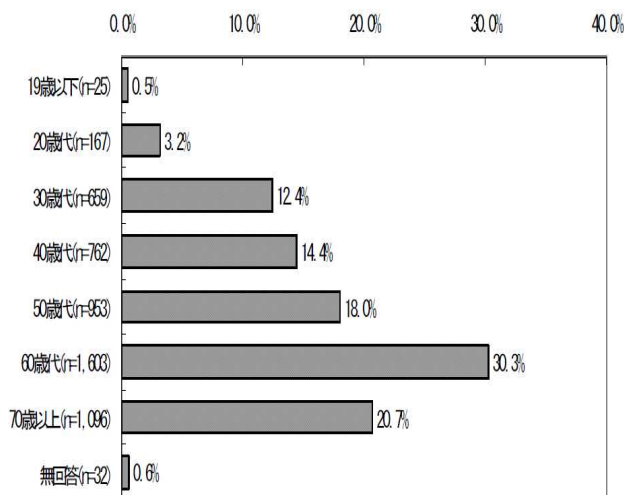


表-9 来街者アンケート回答者の年齢

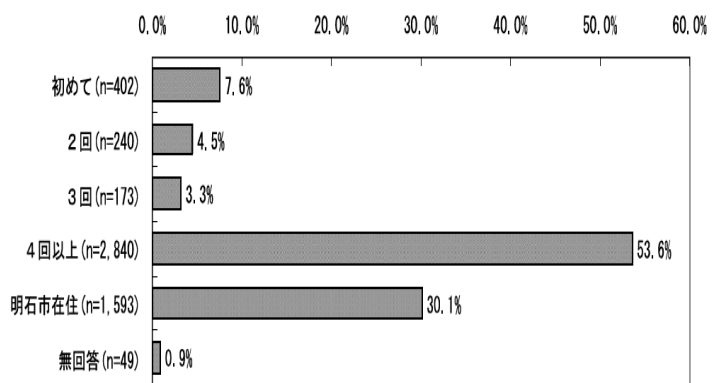
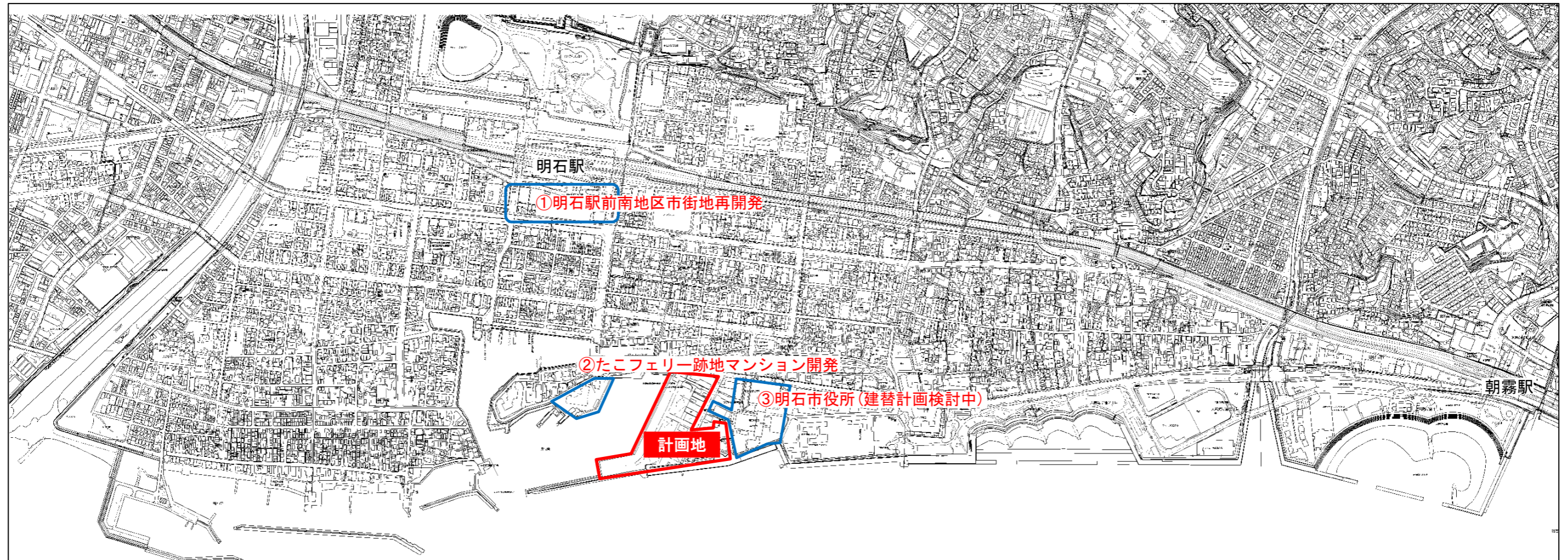


表-10 明石市への来訪回数



2.4 周辺の主な開発状況



① 明石駅前南地区市街地再開発



② たこフェリー跡地マンション開発



③ 明石市役所 (建替計画検討中)



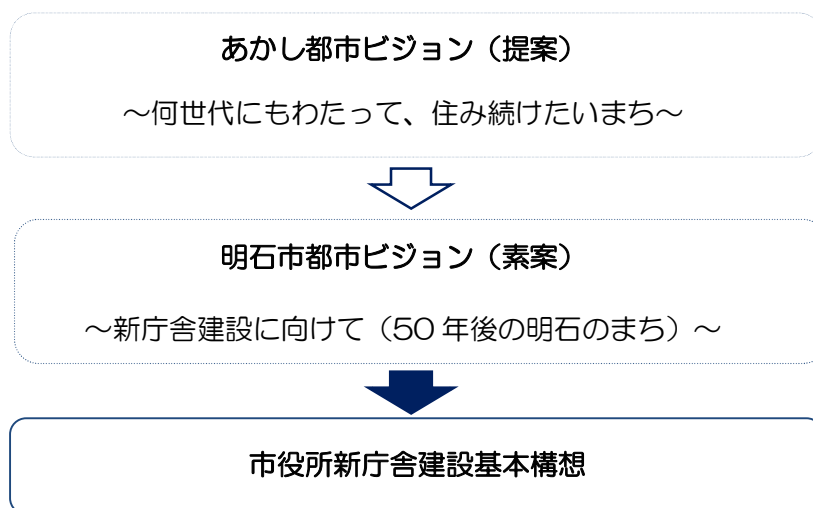
## 《明石市新庁舎建設基本構想について》

### 【背景】

- ・昭和 45 年に建設された現市役所庁舎は、耐用年数とされる 50 年が迫っており、また、老朽化や耐震上の問題もある。

### 【取組み内容】

- ・明石市は、今後策定を予定している「市役所新庁舎建設基本構想」の基礎資料として、市内部のワーキンググループが提案した「あかし都市ビジョン」を踏まえ、「明石市都市ビジョン（素案）」（平成 28 年 6 月）をとりまとめた。



- ・今後、「明石市都市ビジョン（素案）」で示されたまちづくりの方向性を踏まえて、新庁舎の基本理念・求められる機能・必要規模・複数の候補地案・整備手法等の考え方について整理・検討を行い、平成 28 年度末を目途に「(仮称) 市役所新庁舎建設基本構想」として取りまとめる。(※市議会で中間報告。参考資料参照)

## 2.5 水域の利用状況



### 水域の利用状況

#### ①漁船の係留

#### ②淡路ジェノバライン発着所

明石港～岩屋港を結ぶ高速船の発着所として、また明石海峡等のクルーズ便発着所として利用されている。

#### ③旧たこフェリー棧橋

たこフェリー廃止後、未利用となっている。(明石市所有)

#### ④砂利の荷役

砂利運搬船を係留し、貨物の荷揚げを行っている。

#### ⑤プレジャーボートの係留

プレジャーボートは、主に明石港本港、東外港地区に不法係留している。現在、これらプレジャーボートの係留のあり方について別途調整中。

図-4 水域の利用状況